

兵庫医療大学
社会学連携推進機構
2018年度報告書



兵庫医療大学
社会学連携推進機構

はじめに

2015年4月に開設された兵庫医療大学 社会学連携推進機構は、地域社会と本学の連携活動に関わる方針「社会学連携ポリシー」（裏表紙参照）に基づき、本学3学部・共通教育センター・3研究科と連携しつつ、大学の重要な使命の一つである「地域貢献」を実践しています。

本機構の活動については、2017年6月2日（金）および2018年6月1日（金）に開催した本学アドバイザーボード会議において学外有識者の皆様からご指導ご鞭撻を賜り、質の保証だけでなく、質の転換にも取り組んでいるところです。また、開設以来、年度報告書を発行し、「社会学連携ポリシー」を踏まえた振り返りも実践しています。さらに、本機構の活動の実質化・展開をより一層推進するため、2018年9月には測定可能な到達目標を設定したところです。

本報告書には、設定した成果評価指標を踏まえ、2018年度の社会学連携推進機構の活動状況ならびに自己点検・評価を取りまとめました。本学アドバイザーボード会議、連携・協力機関、そして地域の皆様には、「地域と共に学ぶ大学」として兵庫医療大学が発展していくために、是非、ご一読の上、忌憚のないご助言・ご意見を賜れば幸いです。

2018年度の活動報告

地域創生を目指して

<到達目標>

- ①-1：新卒学生における兵庫県内就職率
50%以上
- ①-2：地域創生に資する Project Based Learning 実践学生 10名以上/年
- ①-3：兵庫県多自然地域の企業における
新製品開発支援 2件以上/年

2018年度も、薬学部「薬活オウルズ」は、兵庫県の助成を受け、丹波市立薬草薬樹公園、しあわせの村などにおいて「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおうプロジェクト」に取り組みました。本プロジェクトでは、今年度も「さんなん和田漢方の里まつり」運営支援、「薬草を食べよう！」イベント開催、山南町薬草組合とうき生産部会「当帰苗販売」活動支援などを実施しました。

また、丹波市山南町和田小学校の4・5年生（68名）を対象として本学にて薬草特別講義・実習と、夏休み中の同小児童（44名）を対象

として和田地域づくりセンターにて平成たんば塾も開講しました。さらに、2018年3月から山南町薬草組合とうき生産部会と本学の共同圃場を開設し、当帰栽培にも着手しました。



これらの活動により、微力ながらも丹波市山南町における地域創生に貢献するとともに、参加学生77名（延総数）にPBLを実践する場を提供できたと考えています。

なお、2018年度の3学部生の兵庫県下への就職率は56.7%でした（前年度66.1%）。

地域医療を担う人材の育成

<p><到達目標></p> <p>②-1：ポアアイコンズ／篠山コモンズでの活動10回以上/年</p> <p>②-2：地域医療の発展に資するService Learning 実践学生30名以上/年</p>

今年も、神戸市主催のKOBEエイズフェスタ、ハートフルフェスタ、夏休み親子UD体験教室、神戸UD大学公開講座において24名の学生がサービス・ラーニングを実践しました。



篠山コモンズでは篠山市主催の健康教室「お試しクラブ～いきいきデカボー体操～」 「健康相談」などを支援しました。毎回多くの地域住民が参加し、学生達と一緒に楽しんで健康づくりに取り組んでいただきました。一方、ポアアイコンズでのサービス・ラーニングを1回しか開催できなかったのは反省点です。今年度のコモンズ活動（表1）は、昨年度実績（11回開催；学生参加数48名）に比べて、開催数・学

生参加数ともに大幅に伸びました。

表1. 2018年度 兵庫医療大学ポアアイコンズ／篠山コモンズでのサービス・ラーニングの実施実績

日時	コモンズ	参加学生数 (参加住民数)
8月29日(水)	篠山	3(15)
8月31日(金)	篠山	4(33)
9月7日(金)	篠山	2(36)
9月14日(金)	篠山	2(36)
9月21日(金)	篠山	2(33)
12月8日(土)	ポアアイコンズ	3(11)
2月8日(金)	篠山	3(36)
2月15日(金)	篠山	3(36)
2月22日(金)	篠山	2(36)
3月1日(金)	篠山	3(37)
3月8日(金)	篠山	3(38)
3月22日(金)	篠山	3(38)
3月26日(火)	篠山	3(8)
3月29日(金)	篠山	6(41)
合計	14回	42名(434名)

共同研究・受託研究の推進

<p><到達目標></p> <p>③-1：企業との共同研究・受託研究の実施5課題以上/年</p> <p>③-2：他大学との共同研究の実施1課題以上/年</p> <p>③-3：共同研究の成果として論文・学会発表または特許出願1件以上/年</p>

今年度の共同研究は、前年度からの継続研究8件と、2018年度から開始した新規共同研究5件です（表2）。2014年度に共同・受託研究受入推進に全学的に着手し、その効果が現れ始めた2016年度の実績（継続5件；新規10件）、そして昨年度実績（継続11件；新規2件）と

比べても見劣りしない受入件数は、本学における高い研究アクティビティの賜物と考えています。

表 2. 2018 年度 共同・受託研究一覧 *

	共同・受託研究機関	学内担当者
平成 29 年度 から 継続	国立研究開発法人 理化学研究所 (共同研究)	薬・教授 戴 毅
	国立大学法人 浜松医科大学 (共同研究・課題 1)	薬・講師 中野博明
	国立大学法人 浜松医科大学 (共同研究・課題 2)	薬・講師 中野 博明
	株式会社 西山酒造場 (共同研究)	薬・教授 前田 初男
	摂南大学 (共同研究)	薬・講師 清水 忠
	ユニ・チャーム株式会社 (共同研究)	リハ・教授 川口 浩太郎
	株式会社ビーテンド (受託研究)	リハ・教授 川口 浩太郎
新 規	千寿製薬株式会社 (共同研究)	薬・教授 田中 明人
	株式会社メディカルラボパート ナーズ (共同研究)	薬・教授 甲谷 繁
	国立大学法人 愛媛大学 (共同研究)	薬・教授 田中 明人
	株式会社ナガセビューティー ケア (共同研究)	薬・教授 戴 毅
	国立研究開発法人 理化学研究所 国立大学法人 大阪大学 (共同研究)	薬・教授 田中 明人
株式会社ホームイオン研究 所 (共同研究)	リハ・教授 玉木 彰	

* 連携先機関等との守秘契約のため、取り組んでいる共同・受託研究の課題名、テーマ等は記載していません。

薬学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター。

なお、共同研究成果の公表は以下の 2 報でした。(1) 村上雅裕、田中里佳、東 大輔、安田 恵、天野 学、“インスリンペン型注入デバイスの使いやすさに関するアンケート調査”、日本地域薬局薬学会誌、5、45-52、2018；(2) 日下玲奈、川島 祥、清水美雪、宮部豪人、甲谷 繁、

“光触媒による抗がん剤類似化合物の分解挙動の検討”、日本薬学会第 139 年会、22PO-am155S、2019 年 3 月 21 日、千葉。

「ひとつづくり」支援

<p><到達目標></p> <p>④-1：薬剤師生涯学習セミナーの開催 2 回以上/年</p> <p>④-2：地域在宅看護実践力育成プログラム受講者 10 名以上/年</p> <p>④-3：PT・OT 臨床カステップアッププログラム受講者 10 名以上/年</p>
--

文部科学省認定「職業実践力育成プログラム (Brush-up Program: BP)」として、看護学研究科では「地域在宅看護実践力育成プログラム」を開講し 5 名の修了者に、医療科学研究科では「PT・OT 臨床カステップアッププログラム」を開講し 5 名の修了者に、履修証明書を発行しました (表 3)。

表 3. 年度別 BP 受講者・修了者数

年度	地域在宅看護実践力養成プログラム	
	受講生	修了生
2016	18	14
2017	12	13
2018	20	20
2019	11	
	PT・OT ステップアッププログラム	
2016	14	13
2017	7	7
2018	6	5
2019	16	
総数	104	72

なお、2019 年度は「在宅看護実践力育成プログラム」を 11 名が、「PT・OT 臨床カステ

ップアッププログラム」を16名が受講する予定です。薬学研究科が実施した薬剤師生涯研修セミナーを含め、本機構が主催した講演会、セミナー等を表4に示します。驚異的な数字だと思われた昨年度実績(42回)を上回る44回の講演会、セミナー等を開催しました。

中でも特筆すべき生涯学習支援活動は、「介護予防推進サポーター養成プロジェクト」の取り組みです。今年度4月から着手した「兵庫医療大学 健康づくりサポーターバンク事業」により、同プロジェクト修了者が健康づくりサポーターとして地域で活動しやすくなるように支援体制を構築しました。その結果、後ほど詳述しますが、登録サポーターの自主的かつ積極的な活動により、“健康づくりの輪”が神戸市中央区から他区へと広がりつつあり、地域住民の潜在能力に感服しているところです。

表4. 平成30年度に実施した講演会、セミナー等

開催日	講演会、セミナー等の演題 (担当者*)
6月2日(土)	現役薬剤師が教えるお薬の正しい使い方について (ぼうしや調剤薬局・幸福 寮／薬・藤野 秀樹)
6月9日(土)	～気象と健康～ フェーン現象で気温上昇、 〇〇〇〇に注意!? (NHK「おはよう日本」気象キャスター・檜山 靖洋)
7月14日(土) 10月20日(土) 12月22日(土) 3月2日(土)	クリニカル・カフェ 対話の中で考える生老病死 ・便利になって失われたもの ・空気を読むこと ・死はすべての終わりなのか? ・正しく生きれば幸福になれるか (共ゼ・紀平 知樹、常見 幸)
7月17日(火) 7月18日(水)	体力測定会 ～自分の今の体力を知り、 健康生活に活かしましょう!～ (看・土井 有羽子)
7月19日(木)	創薬における「坂の上の雲」 (公財 小野医学研究財団 理事長・福島 大吉)

A・Bコース 7月23日(月) 8月1日(水) 8月29日(水) 9月26日(水) C・Dコース 10月18日(木) 10月31日(水) 11月28日(水) 12月25日(火)	健康みなおし教室 ～トイレに悩む前に～ (リハ・森 明子)
7月29日(日)	夏休み自由研究! ～色の変化!～ 身近な野菜や花の色で 色素の実験をやってみよう (薬・岩岡 恵美子)
8月22日(水)	Evidence Based Practiceの 看護実践への導入 ～SRの重要性～(看・今野 理 恵)
9月26日(水) 10月3日(水) 10月10日(水) 10月17日(水) 10月24日(水)	介護予防推進サポーター 養成プロジェクト <神戸市中央区 健康づくり続け隊> (リハ・永井 宏達)
10月13日(土)	男女ともに更年期と上手に つきあいましょう (看・西村 明子)
10月14日(日)	第8回武庫川ポアアイ EBMクラブ(薬・清水 忠)
10月20日(土)	第9回兵庫医療大学 生涯研修セミナー 「地方病院に勤務する 病院薬剤師の挑戦」 (朝来医療センター 薬剤部係長・辻井 聡容) 「チームの中の薬剤師」 (尼崎総合医療センター 薬剤部主任・大谷 美奈子) 「チーム医療における薬剤師 の関わり」 (北野病院 薬剤部部長・ 尾上 雅英)
10月20日(土)	ポーポキ・ピース・ネットワーク 第8回ワークショップ 「健康って、なに色?」 (薬・桂木 聡子)
10月20日(土) 11月3日(土)	おしゃべりカフェ 「がんの体験とわたしの気持ち」 「日々の生活と健康へのくふう」 「さまざまな資源と役立つ情報」 (看・山内 洋子)
12月4日(火)	エイズと共に生きるちから! (シヨゼ・アラウジヨ・フィリヨ)

11月3日(土) 12月1日(土) 12月22日(土)	リラクゼーションを取り入れた 健やかな生活を目指して (看・鈴木 みゆき、荻野 待子、 増田 富美子、岸 あゆみ、山田 絵里、宮前 奈央、松久 智美、竹 田 千佐子)
12月8日(土)	個性? こだわり? それともメンタル疾患? (リハ・松井 徳造)
12月12日(水)	嚥下機能低下予防講座 いつまでも自分の口から 食べ続けるために (薬・桂木 聡子)
12月14日(金)	自助と互助で行う介護予防 運動や食事、近隣の方々との交流から 介護予防を始めませんか? (筑波大学大学院 人間総合科学 研究科 准教授・山田 実)
1月6日(日)	バスボムを作って 化学反応をみてみよう (薬・岩岡 恵実子)
2月24日(日) 3月9日(土)	初心者パパのための 「子育て実践講座」 (看・足立 安正、 高谷 知史、西山 章弘)
3月10日(日)	究極のバリアフリースポーツ 「ボッチャ」体験 (兵庫県ボッチャ協会 副会長・ 原田 浩明)
3月19日(火)	「疾病予防のためにはどこでどの 程度の運動を売れば良いのか?」 (リハ・宮本 俊朗)
3月21日(木)	まち歩き探検隊 ～誰にとっても住みやすい、やさ しい街づくりを目指して～ (共セ・上山崎 悦代)
3月23日(土)	「ストレスとうつの心理学」 (共セ・土江 伸誉)

* 薬：薬学部、看：看護学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター。

「ものづくり」支援

<到達目標>
⑤-1：企業との共同研究の実施2課題以上/年
⑤-2：企業における課題解決に資する Project Based Learning 実践学生5名以上/年
⑤-3：企業における新製品開発支援2件以上/年

「薬活オウルズ」が2017年1月から取り組んでいる「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおうプロジェクト」では、学生たちを交え新商品の試食会等を繰返し、昨年度に開発した「とうき葉うどん」「とうき葉パン」「とうき葉塩」に続き、「とうき葉パウンドケーキ」「とうき葉せんべい」の開発を支援しました。また、同プロジェクトでは、これらの商品の普及を図るために、とうき葉の効能・効果の科学的な検証に取り組んでいます。この取り組みでは、薬学部の学生たちがGC/MSとLC/MSによる成分分析をPBLとして実践しています。



一方、薬学部では、企業との共同研究において、既存の医薬品の代謝物の中から、ある疾患に非常に強い薬理作用を示す化合物を見出しています。本学から素晴らしい新薬が創出されると期待すること大です。なお、この研究にもPBLとして学生たちが参加しています。なお、「ものづくり」支援に関わる企業との共同研究の実施状況も表2をご参照ください。

「まちづくり」支援

<到達目標>
⑥-1：地域の健康づくりに資する Service Learning 実践学生20名/年
⑥-2：「兵庫医療大学健康づくりサポーターバンク事業」新規登録者5名/年

今年度も、本学公認サークル「ポーアイ多職

種連携学生ネットワーク（ポーアイネット）」の学生達がドナルド・マクドナルド・ハウス神戸の運営を支援しました。本サークルの目的として、「まちづくり」支援活動に加え、地域創生支援活動、本学コモンズ活動などが根付きつつあり、大学として頼もしい限りです。

ポーアイネット活動と同様に、ある種の枠組み構築が、“活動のスタートアップに重要である”ことを再認識したのが「兵庫医療大学 健康づくりサポーターバンク事業」です。「介護予防推進サポーター養成プロジェクト」の修了者を対象にサポーター登録を募ったところ、2017年度以前の修了生から30名に、今年度の修了生から13名に登録いただきました。2019年度4月にも1名が登録する予定です。



本学が進呈した「健康づくりサポーター」IDカードを首に掛けた登録サポーターの皆さんが「健康づくりエバンジェリスト」として活躍しています。港島ふれあいセンターでは毎月第4月曜日13時30分から、新神戸・籠池地域福祉センターでは毎月第3月曜日14時から、デュアルタスクや、オリジナルのプログラムを駆使しつつ、介護予防体操教室を自主運営してい

ます。また、他地域において介護予防体操教室を自主開催する登録サポーターさんもいます。登録サポーターの皆さんの自主的な活動が「令和」のブームになりそうな予感がします。

自己点検・評価

今年度の活動を通して、成果評価指標として設定した全ての到達目標を達成できました。本学教職員が社学連携ポリシーに則り社学連携活動に取り組んだ賜物だと喜んでいますが、①-1については、薬学部卒業生が大手薬局・ドラッグに就職した場合、就職先都道府県をそれら企業の本社所在地として取り扱っています。その結果、配属地が兵庫県内になっている卒業生もいることから、実際の兵庫県内就職率は記載した値より高いはずですが、より正確に卒業生動向を把握するという観点から、本学卒業生の就職状況の追跡方法について、今後、改善していく所存です。

2018年度の活動において特筆すべき点は、今年度から着手した「健康づくりサポーターバンク事業」が予想以上に功を奏し、登録サポーターの皆さんの活動を地域と共に学ぶ大学として支援できたことです。この取り組みが、来年度以降、どのように拡充・展開していくか興味深いところです。また、薬活オウルズの活動が丹波市内で耳目を集めていることや、生涯学習支援活動として提供している講演会、セミナー等を楽しみにしている地域住民、つまりリピーターが増えていることも、大いに評価できます。しかし、本機構は現状に甘んじることなく、地域と共に学ぶ大学として、より一層、地域貢献に取り組んでまいります

社学連携推進機構 2018 年度報告書

発行日 2019 年 5 月

発 行 兵庫医療大学

社学連携推進機構

〒650-8501 兵庫県神戸市中央区港島 1-3-6

TEL 078-304-3111

【兵庫医療大学 社会学連携ポリシー】

①地域創生をめざして

兵庫県は、他の地方自治体と同様に、少子高齢化、転出超過などの問題に直面しています。これらの問題点を解決するため、兵庫医療大学は、兵庫県ならびに県内の市町村と協働し、本学の知と経験を地域創生のために積極的に活用していきます。

②地域医療を担う人材の育成

超高齢社会に突入した日本では、今後さらに、地域医療の充実が求められます。兵庫医療大学は、地域社会から地域社会とともに学ぶ双方向型教育研究を実践し、高度医療専門職者として地域に根ざして地域医療を担う人材の育成に取り組みます。

③共同研究・受託研究の推進

科学技術創造立国を目指す日本において、大学の研究活動に大きな期待が寄せられています。兵庫医療大学は、本学の知的財産などの様々な研究成果を活用する共同研究・受託研究を推進し、大学の知と経験の社会還元積極的に取り組んでいきます。

④「ひとづくり」支援

「21世紀兵庫長期ビジョン」において兵庫県は、県民主役・地域主導による一人一人が元気な成熟社会を目指しています。兵庫医療大学は、この兵庫県の取組みを支援するため、高大連携、生涯学習、リカレント教育などの学びの場を積極的に提供し、地域社会における「ひとづくり」に、持続的に取り組んでいきます。

⑤「ものづくり」支援

医療や健康づくりをキーワードとして「ものづくり」に取り組んでいる在兵庫企業は、独自技術の未活用、科学的根拠の不足など、様々な課題を抱えています。兵庫医療大学は、本学の知と経験を活用することにより、それらの企業が直面する課題の解決を目指して協働し、地域社会における産業イノベーションを積極的に支援します。

⑥「まちづくり」支援

「ひとづくり」と「ものづくり」だけでなく、「まちづくり」も大学に求められている社会貢献の一つです。兵庫医療大学は、兵庫県、県下の市町村、そして地域社会と協働しつつ、教職員だけでなく、学生達の地域活動への参加を促進し、大学の知と経験を活用した「まちづくり」に取り組んでいきます。